理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

一〇・一 印教研理科研究九部集会 講評と会員の声

小学校中学年　講評　高橋　正昭先生

中学年部会に参加させて頂いて講評と言うより感想を含めて述べさせて頂きます。

提案は、一・三・五部会が生物分野、二部会がコンピュータ活用、四部会は複線型の指導法を中心としたものでした。どの部会も今日的課題をしっかりとつかみ、その解決に努力されている姿に、いつも頭が下がる思いです。

提案の内容を生物分野でみると、一部会はサギのコロニー観察、カエルの教材化など地域の自然の教材化とその実践、三部会は三年の生物分野を仮説に即して実践し考察、五部会はチョウの継続観察を通して心情を高める実践でした。

例えばチョウの観察ひとつをとっても、昔くから教材化されていますが、実際に実践してみるとなかなか大変です。高学年より中学年の生物分野の方が、地域の自然に直接ふれて活動することが多く要求されるし、必要であると思います。チョウの実践は比較的実践の姿が見えましたが、他は内容的に物足りなさが残りました。よく"三つ子の魂百まで"と言われることがあります。中学年として、このような教材を、こう工夫してこんな風に指導したら、こうなったよという具体的に活用できる提案、目に見える提案をして頂けると大変ありがたいと思います。

二部会のコンピュータ活用、四部会の指導法についても、中学年の子どもという視点を明確に一層研究を深めていくことを願います。

小学校高学年　講評　加藤　弘明先生

今年も各部会から熱のこもった研究が発表された。内容は「生物とその環境」に関するものが三本、「地球と宇宙」に関するものが二本であった。「物質とエネルギー」に関する実践発表がなかったことは寂しいが、いずれも構想から実践まで、三年以上の時間をかけてじっくりと取り組んだ研究であった。研究テーマには「感性を豊かにし…」とか、「学ぶ力」、「興味関心」、「理科的心情」、学習することの「充実感、満足感」等の文言がキイワードとして挿入され、知識量よりは思考力、表現力、そして意欲と心の豊かさを…といった現代の学力観が反映されているものの、テーマが大きすぎて結論を述べるには、実践内容と量が追いつかない感があった。感性とか学ぶ力、興味関心等は、限られた時間、限られた内容で達成できるというものではないだけに、実践発表がコンピュータの活用や地域の教材開発に力を注ぎ、指導過程の工夫改善を図っていても、今一歩アピールしにくい。県教研へは三部会が行くことになったのは、メダカを素材として、効果的な実験観察の在り方を子どもの学習記録を根拠にわかりやすく示した事による。一、五部会の発表は、内容的には素晴らしいものの、先に述べた意味で、今一歩説得力に欠けた。今後は各部会とも、研究テーマを絞り、実践内容を焦点化して豊富な実践例をもとにした発表を臨みたいと思う。

中学校　講評　宮本　久男先生

忙しい中提案してくださいました各部会の先生方にまずお礼を申し上げます。

・四部会　実験・観察の難しい地学分野において、教材開発を通していかに生徒の意欲を高めるかに焦点を当てたものであった。可能な限り直接経験をさせたいという教師の意欲が感じられる提案であった。

・五部会　光の反射・屈折等を調べるための「半導体レーザー光装置」の開発・自作により、少人数化・意欲化を図ったものであった。正確なデータがとれるすばらしい器具で、生徒の反応も良かったということだが、大変な労力をかけて開発にあたった先生方に敬意を表する。

・一部会　「自然のしくみを自ら調べる意欲を高める」指導のあり方を追求したものであった。複線型の指導計画を作成し、生徒一人一人が主体的に学習を進めていく授業を目指した意欲的な提案であった。

・二部会　生徒の興味・関心を引く、すぐに使える実験の紹介があった。実験方法及び指導上のポイントも詳しく書かれていた。

・三部会　「科学的思考力を育てる指導」のあり方を実践に基づき追求した提案であった。与えられた学習でなく、一人一人が自らの問題としてとらえ、主体的に追求し、学び方を学ばせるすばらしい提案であった。

会員の声

中学年分科会より　成田小　八角　智恵子

今年、久しぶりに中学年部会に入り、一日研修を通し、改めて三四年理科の難しさ、重大さを認識致しました。一、三、五部会は、テーマは違いますが生物分野を取り上げていました。カエルやサギのコロニーの観察、モンシロチョウの羽化の感動的体験、種々の昆虫や生物の体のつくりの観察等々日々、刻々と変化する生命体の不思議なメカニズムの瞬時をのがさず観察し続ける事は、大変な事であると痛感致しました。又、それらの観察を通して、季節の風や光色や影にさえも感動できる子供達であって欲しいとも思いました。

二部会のコンピュータ活用の授業、四部会の複線型の授業の提案は、メカに弱い私にとって今後勉強していかなければならない方向性を示唆するものでした。一日大変な勉強をさせていただきました。

高学年分科会より　二州小　小山　成志先生

印教研集会に参加していつも思うことは、各部会の研究部の提案の取り組み内容に特色があり、自分もさらに理科教育に頑張らねばと、刺激されることである。

今回、部会のそれぞれの提案を聞き、参考になったことは、

一部会：理論的な研究がしっかりできており、環境教育についての取り組みがよくわかった。二部会：部会の取り組み（組織としての取り組みのすばらしさ）を感じた。三部会：具体的な実践資料が多くとても参考になった。四部会：個々の児童の興味・関心を高めるための手立てとしての理論が参考になった。五部会：心情・感性についての取り組みに熱意が感じられた。以上、今回の研究集会で学び充実した一日の感想です。

中学校分科会より　八街中央中　瀧口　誠之

今回を含め、私はこれまでに七度教研に参加させて頂きました。その中で、毎回感じる事があります。各部会の先生方の熱心な取り組みを目の当たりにし、感心したり、心から驚いたり、また、現在の自分はこのままでいいのだろうかというあせりのようなものもじます。印旛中の先生方の素晴しい点をたった一つでも自分のにできたらと強く思います。

今回の教研を通し、理科の授業の複線化の実践を多数聞かせて頂き、自分のできる事から始めてみようと考えています。助言者の先生のお話にあった様に単元の見極めをうまくし、少しずつ実践していきたいと考えています。

来年度も刺激のある教研であることを期待しています。